



【緑地を楽しむ本】

地球がうみだす土のはなし

大西健夫・龍澤彩 文 西山竜平 絵 福音館書店

一本のコナラの木が、
「土」について語ってくれる。

「ぼくの下には、土がある。・・・(中略)・・・もし、ここに土がなかったら、ぼくはこんなに大きくなれなかった。」火山の噴火で飛ばされた火山灰や砂つぶ、そして微生物によって長い長い時間をかけて土が作られていく様子が、ていねいに物語のように語られてゆく。

「無機的な鉱物を指して『土』、無機物と有機物の複合体を指して『土壌』と区別することがある

が、ここでは後者の意味で『土』と言う」ので、現在の研究では生物が陸上に進出してきた6億年前程度に土が生み出されたと考えられているという。土が生み出されてきた長い長い時間に思いを馳せることが、地球上に暮らす生き物としての人間のあり方について考えることにつながるのでは、と解説にある。

静かで説得力のある本だ。

(遠藤)